

令和4年度

函館白百合学園中学校

一般入学試験問題(前期日程)

国語

令和3年12月5日(日)実施

注意事項

1. 試験時間は45分です。
2. 問題は□から□まであり、12ページまであります。
3. 答えはすべて別紙の解答用紙に記入し、解答用紙だけ提出しなさい。

次の問いに答えなさい。

問1 次の——線のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 桜を見ると心がナゴむ。
- ② シンクウパックにする。
- ③ おハカ参りに行く。
- ④ ナンイ度の高い問題。
- ⑤ ショウタイをあらわす。
- ⑥ ムゾウサに帽子をかぶる。
- ⑦ ヒタイに汗あせをかく。
- ⑧ テンキョ先を知らせる。

問2 次の——線のカタカナを漢字と送りがなに直しなさい。

- ① 人をアツメル。
- ② 財産をウシナウ。

問3 次の——線の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- ① 雑木林に入る。
- ② 直筆のサイン。
- ③ 彼女の方が一枚上手だ。
- ④ あのお店は人気がない。
- ⑤ 相手の言い分を逆手にとる。
- ⑥ 戦争の記憶を風化させない。

問4 次の読み方をする熟語を二つ答えなさい。

・サンセイ

問5 次の漢字のうち、一画目が左払いから始まるものを、ア～オから二つ選二つびなさい。

ア皮 イ返 ウ厚 エ存 オ布

問6 次の部首をもつ漢字を、ア～カからそれぞれ選二つびなさい。

① りつとう ② おおがい

ア冬 イ預 ウ算 エ利 オ好 カ散

問7 次の語の対義語（反対の意味になる言葉）を、後の漢字を組み合わせて答えなさい。

① 結果 ② 自然

天	精	工	因	元	原	人	効
---	---	---	---	---	---	---	---

問8 次の□に漢字一字を入れなさい。

① 焼け石に□ 「意味…わずかな努力や助けでは効果がないことのとえ。」

② 雨降って□固まる 「意味…悪いことなどがあつた後に、前よりかえってよくなることのとえ。」

問9 次の――線の言葉の意味を、後からそれぞれ選びなさい。

① みんなだまっているから、私が口を切る。

② 歩きスマホをして車にひかれそうになり、肝を冷やす。

ア ぞっとする

イ がっかりする

ウ 最初に言い出す

エ じつとがまんする

オ 見えないようにする

問10 次の文には一か所ずつ表現に誤りがある。(例)にならって正しい表現に直しなさい。

(例) 看護師にとって大切なのは、患者の立場になって考えることができる人です。

誤

できる人です。

↓ 正

できることです。

① 入学試験に合格したのは、勉強をがんばった。

② 明日は雨が降る予報だったけれど、一応傘を持って行くことにした。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

自分自身でつくり出せる以外の状況じょうきょうを、「ツキ」という言葉で片付けてしまうことがある。たしかに「時の運」というべき幸運、不運はあるかもしれない。しかし、負けてしまったときには特に不運ではなく、自分の実力でそうなってしまったケースも多々あると思っている。

自分ではどうにもならないもの、いかんともしがたいものであれば受け入れるしかない。

たとえば、将棋しょうぎの1せんて先手後手を決める振り駒ふりこま。現在の対局①セイセキではやや先手が優位とされており、振り駒も②シヨウハイに影響えいきょうするのでないかといわれ、その結果にツキが重ねられたりすることがある。

しかし、それもたいてい③コウヘイになると思っている。もちろん、その瞬間しゅんかんにはツキが左右しているように見えるかもしれないが、長い目で見たらコウヘイだと思っっている。

したがって、*ゲンは担かかがない。そこを気にしても仕方がないからだ。

短期間ではその④ヨウソは大きいのだが、ツキの占める割合は時間が長くなるとともに少しずつ⑤ケイゲンされていく。

起こるべくして起きた、なるべくしてなったというのではないような状況において、「これはどう考えても幸運が味方してくれたに違ちがい」とか「これはもう本当に不運としかいいようがない」といったことを考えることはある。

たとえばそれが大きなチャンスやピンチの瞬間であるとき——何か偶発ぐうはつ的なものが、①自分の*思惑おもわくと重なって、大きな意味をもつような気がしてしまうこともある。

ただ私は、それら運、不運も天気と同じようなもので、②の巡り合わせめぐりあわせといった程度のものだと思っっている。それを「運命」だとか「必然」だとか、ことさら大きな意味のあるものとは受け止めない。そういうものはあるだろうとは思っているが、③それに固執こしつしないようにしている。

その結果に②一喜一憂いつきいちゆうしないことだ。

それですべてが決まるわけではない。むしろ、そのときその状況に対してどう考えるかということのほうが大事だと思う。運、不運や巡り合わせみたいなものがないということではなく、それらがあつた上で、それでも地力があればそういう状態を乗り越え

たり回避かいひできたりするはずだと信じている。であるから、そちらに **4 重い** を置くべきだと思うのだ。
ただし、ツキには人々を魅了みりょうしてやまない魅力みりょくがある。その **5 深い** に一度ハマってしまおうと本来自分がやるべきことを忘れて、
ツキだけを追い求めてしまいかねない。

そして、実は、人は誰だれでもそこに **6 楽しい** を求めるのだということも感じてはいる。

自分がツイているかいないかということを試すことくらい楽しいことはないのではないかな。いつの時代うらなも占はいが流行り、多くの人がギャンブルに **3 夢中**になるのは、そういうことだと思ふ。ものすごく楽しいのだ。
それはそれでいいのだが、それがすべてになってしまうのは、 **4 本末転倒**ほんまつてんとうだろう。

(羽生 善治 「直感力」)

※ゲンを担ぐ：以前やってみてよかった行いを、縁起えんぎがいいと考えてふたたび行うこと。

※思考：あらかじめ考えていたことがら。見込み。

※出題の都合上、小見出しなどは省略し、漢字など表記をあらためました。

問1 〓線①～⑤のカタカナを漢字に直しなさい。

問2 **1** **3** に入る言葉の組み合わせとして適当なものを、ア～エから選びなさい。

	1	2	3
ア	たまたま	ちようど	あまり
イ	ちようど	たまたま	あまり
ウ	あまり	たまたま	ちようど
エ	あまり	ちようど	たまたま

問3 ———線1 「先手後手」とあるが、「手」を使った次の①～③の慣用句の意味を、ア～オからそれぞれ選びなさい。

- ① 手がかかる ② 手を広げる ③ 手に余る

ア 今までやらなかった仕事にまで関係するようになる。

イ 手出しをしないでじっと見ている。

ウ 自分ではどうすることもできず困る。

エ 何かほかのことに気を取られ、そのことに集中できない。

オ それをするのにいろいろめんどうなことが多くある。

問4 ———線2 「一喜一憂」について、(1)、(2)に答えなさい。

(1) 「一喜一憂」の意味を、ア～エから選びなさい。

ア まわりの状況に関係なく、喜びや不安を感じることに。

イ その時の状況に応じて、感情の変化を味わうこと。

ウ 状況が変わるたびに、喜んだり、心配したりすること。

エ 人の感情は非常に変わりやすく、一定ではないこと。

(2) 「一」を含む次の四字熟語の□に漢字を入れて、()内の読みになるように四字熟語を完成させなさい。

ア 一石□鳥 (いっせきにちょう)

イ 一部□終 (いちぶしじゅう)

ウ 一世□

(いっせいちだい)

問5 に入る言葉を、それぞれ本文中に合うように適当な形に直しなさい。

問6 線3 「夢中」を使った次の四字熟語の に当てはまる漢字を答えなさい。

我夢中 (むがむちゅう)

問7 線4 「本末転倒」の意味を、ア～エから選びなさい。

- ア 重要なことと、そうではないことをわざと入れかえること。
- イ 重要なことと、そうではないことをはっきり意識すること。
- ウ 重要なことと、そうではないことを同時にすること。
- エ 重要なことと、そうではないことをとりちがえること。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

将棋の世界は、勝負によって結果がはっきりする自己責任の世界だ。やめていく先輩や仲間たちの姿を見て、私は自己責任の本質を学んだ。

月並みなことをしていると、少しずつ状況が悪くなる。変化を恐れない前向きな姿勢が必要だ。

この時代、世界は驚くほどの猛スピードで進んでいる。ほんの二、三十年前と比べてもけた違いの変化が、私たちの身の回りから始まって、あらゆるところに見られる。

そんな急激な変化に対応しなければならなくなると、組織の単位では間に合わない。複数の人間の集合体で何かをしようとなれば、確実に時間がかかる。いい意味でも悪い意味でも調和や調整を図ることを必要とされる組織では、そのスピードに追い付けないのだ。よほど規模が小さいか、非常にフットワークが軽い、意思疎通が明確で早い組織でない限りは難しい。

1 個人のレベルで対応するしかないと思う。

しかし、そこには常に自分自身の決断の力が必要とされる。その前提には、自分一人でもがく時間も必要になる。

元来、将棋の世界では師匠が弟子に何かを「教える」ことはなかった。それが最近では、師匠のほうから進んで弟子に手取り足取りしてしまうというケースが多いように思う。

それは弟子を思っているよりも、師匠のほう心配で仕方がないから、ついつい直接的に教えてしまっている様子にも感じられる。だが実は、分からない、迷っている、悩んでいるとか空回りしているといった苦しい時間こそが、後々の財産になるものだ。

そこで自分の力を精一杯使ってもがいている人にいきなり、こうしろと教えてしまうのは、親切なように見えて、実際のところはその逆の作用をしてしまう。

2 自力で考える覚悟がなければならぬ。

何かのデータや誰かの意見に乗って、多数派だから安心だとか安全だということはない。自分で調べて自分で考え、自分で責任をもって判断する姿勢をもっていないと、自分の望んでいない場所へ流されていく可能性もある。

3 その先を読む眼をもつためには、表面的な出来事を見るのではなく、水面下で起きているさまざまな事象を注視することだ。

たくさんさんの情報が入手できるのであれば、それを活用するのもいいだろう。ただそこで、**※**やみくもにその情報に従うのではなく、やはり**4**自分なりの価値基準を決めて取捨選択せんたくすることが必要になる。

それは、分かりやすくいえば、ある種のブランドをつくるということだ。それは世間でいう有名どころという意味でのブランドかもしれないし、あるいは、自分だけのブランドかもしれない。身近なこの人が言っているから信用できるとか、自分にとって価値のあることを発信している人に重きを置くとかいったことだ。

また、そうではなく、とりあえず「量」を見ることもある。

5玉石混淆ぎよくせきこんじょうだと承知しながら、たとえば一〇〇なら一〇〇〇の情報をざっと見る。その後に、これはダメだとか、使える、使えないというような、取捨選択をするアプローチの仕方もあるだろう。

そういうプロセスをとりながら、自分なりの決断方法を構築していくのだ。

ただ取捨選択を繰り返すのではなく、そこで自分なりに判断したり、もがいたり、何か新しいアイデアを考えたりしながら、その先へと向かっていく。

たとえば**※**棋譜きふも、必要な情報が全部、そこに載のっているわけではない。自分が本当に知りたいことは、棋譜にあらわれた内容を超こえて、その水面下にある。表に出現しているところから一步踏み込まないと、価値をもたない。

それを承知しながら行う情報の選択は、決断へと向かう、そのとっかかりの場所を見つけるための作業に近いかもしれない。どんなときでも、もがきながら何かをつかもうとする姿勢はうしなわなないでいたいと考えている。

(羽生 善治 「直感力」)

※疎通 … 意志、気持ちなどが相手によく理解され、通じること。

※やみくもに … 先の見通しもつかないままにする様子。

※棋譜 … 碁、将棋の対局の手順を記録したもの。

※出題の都合上、小見出しなどは省略し、漢字など表記をあらためました。

問1 ———線1 「個人のレベルで対応するしかないと思う」とあるが、どのようなことに「対応」しなければならないのか。本文中の言葉を使って十字以内で答えなさい。

問2 ———線2 「自力で考える覚悟がなければならない」について、(1)、(2)に答えなさい。

(1) 「自力で考える」ことによってどのような力が身につくか、本文中から十字以内で書きぬきなさい。

(2) 筆者は「自力で考える」ことがなければ、どのようなおそれがあると言っているか。本文中の言葉を使って二十五以内で答えなさい。

問3 次の文章は、———線3 「その先を読む眼をもつためには、表面的な出来事を見るのではなく、水面下で起きているさまざまな事象を注視することだ」について説明したものである。□□に当てはまる言葉を□□内の字数で本文中から書きぬきなさい。

たとえば将棋で考えると、棋譜にあらわれた表面的な内容を見るだけではなく、そこから□□ア 八字と、□□イ 二字がない。表にあらわれたことだけ見ているは□□ウ 十字 □□ことは得られない。これは先を読む眼をもつためには必要なことである。

問4 ———線4 「自分なりの価値の基準を決めて取捨選択すること」とあるが、筆者は「取捨選択する」だけではなく、さらにどのようなことが必要だと言っているか。五十字前後で説明しなさい。

問5 ———線5 「玉石混淆」の意味を、ア～エから選びなさい。

- ア いいものと悪いものとの区別をはっきりつけること。
- イ いいものと悪いものが入りまじっていること。
- ウ いいものも悪いものもすべてを調べること。
- エ いいものも悪いものもなかったことにすること。

問6 本文の内容ともっとも合っているものを、ア～エから選びなさい。

- ア 自分の力を精一杯使ってもがいている人に、師匠である人が、親切に教えて助けることは必要だ。
- イ 何かのデータやほかの人の意見は、多数派だから安全なものなので、ある程度信じてよい。
- ウ 何かを判断するためには、とにかくたくさんさんの情報を入力して、その情報に従っていくのがよい方法である。
- エ どんな状況であっても、苦しみながらも何かをつかもうとする姿勢をうしなわなければならない。

国語

受験番号

氏名

100

一 問 1 ① 和む ② 真空 ③ 墓 ④ 難易 ⑤ 正体
⑥ 無造作 ⑦ 額 ⑧ 転居

問 2 ① 集める ② 失う

問 3 ① ぞうきばやし ② じきひつ ③ うわて

④ にんき(ひとけ) ⑤ さかて ⑥ ふうか

問 4 賛成 酸性 問 5 ア オ 問 6 ① エ ② イ

問 7 ① 原因 ② 人工 問 8 ① 水 ② 地 問 9 ① ウ ② ア

問 10 ① 誤 ② 誤

① 誤 ② 誤

二 問 1 ① 成績 ② 勝敗 ③ 公平 ④ 要素 ⑤ 軽減

問 2 イ 問 3 ① オ ② ア ③ ウ 問 4 (1) ウ (2) ア ③ ④ ⑤

問 5 4 重さ 5 深み 6 楽しみ(楽しさ) ②×3 問 6 無 ② 問 7 エ ③

三 問 1 世界の急激な変化 ⑩ ③ 問 2 (1) 自分自身の決断の力 ⑩ ③

(2) 自分の望んでいない場所へ流されていくおそれ。 ⑤

問 3 ア ③ 問 4 ④

問 4 自分なりに判断したり、もがいたり、何か新しいアイデ
アを考えたりしながら、その先へと向かっ
ていくこと。 ⑩

問 5 イ ③ 問 6 エ ④

30

33

37

①×30

①×5

⑩